
home=レス??

kuro

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

homeless??

【Nコード】

N4351BA

【作者名】

kuro

【あらすじ】

私、今井 啓介は今井コーポレーションの社長の息子として生まれたお金持ちだが生粋の非リアである

ある日突然の親父の謎の行動によりホームレス街道まっしぐらに

この小説は突然ホームレスになってしまった青年の戦いの話である

学生？ホームレス
金持ち？貧乏

1／1 半額弁当の売り場はホームレスや貧乏学生にとっては戦場である（前書

初めまして、これからヨロシクお願いします

1／1 半額弁当の売り場はホームレスや貧乏学生にとっては戦場である

「クソツタレ!!」

私、今井 啓介 16歳は本当に絶望の片鱗を味わっていた

食料……無し

衣服……悲し

住居……ネエーよ

そう世間一般からはホームレスと呼ばれる待遇の人間だ
こうなったのには深い事情がある

6時間前……

俺は学校（補習）へと向かうため冬の坂道を歩いていた
その時、後ろから背中に衝撃が走った

「オッはーよー!!」

この台詞のみを聞けば元気な女の子の朝の挨拶にしか聞こえないだ
ろう

だがしかし後ろから来たのは、挨拶とジャンピングドロップキック
のコンボ攻撃だ

「いってェー!!」

まあ、突然の死角からの一撃をかわす事は出来ず前からアスファルトに突っ込んで行った

「ありやろ??」

健全な男子高校生ちゃんは何でこんなか弱い美少女のドロップキックをかわせ無いのかな??」

この綺麗な顔をした女性は木山 小春

綺麗な花には何とやら

後ろから挨拶がわりのドロップキックをしてくる少女はか弱くは無
いはずだ

「いくら健全な男子高校生でも後ろからの奇襲はかわせません」

「もう、どうするのよ」

寝ている時に襲われたら、ひとたまりも無いじゃ無い」

何言ってるんだこいつは

「私を襲うような人間はこの時代に存在してません
寝込みを襲われたいなら戦国時代にトリップしてな」

トリップってこういう意味だっけ??

「大丈夫よ、この時代にも私がいるわよ」

「聞こえない、聞こえ無いたら
聞こえない!!」

俺は全速力で坂道を駆け上がった

……

場所が変わって学校

「啓介、お前何でそんな暗いんだよ？」

話しかけて来た少年Aは霧之 旭
何の取り柄も無い少年Aだ

「朝から小春に絡まれた……」

俺がため息を吐きながら応えたと

「おまつ！！それで落ち込むとか超意味分からなし
あんな超絶美少女に声かけられて落ち込むとかお前は男じゃねエ、
人間じゃねエ！！」

「なるほど、よく分かった

お前の考えはよく分かったぞ、確かに小春は美少女かもしれない
だがなあ！！

後ろから毎日挨拶がわりにドロップキックをかましてくる奴を好き
になれって言う方がムリだっつーの！！」

確かに俺も彼奴の容姿はタイプだ

直球低め鋭角に入る怒ストライクだ

……ただ、性格がな、ハア

「よし、てめえら黙れ」

ドアから先生が入ってきた
ゴリラみたいなおっさんだ

こうして俺の一日が始まる

……

「はぁ、疲れた」

俺は補習が終ってから家に帰って来た
まあ、補習が終ってから男友達とカラオケ行ってたんだけどな
女子?? いるわけねえのよ
俺らはどうせ非リアです

俺は帰るべき場所の前に立ってある異変に気づいた

「お、俺の家が無い……」

そう跡形もなく消え去っていた

p r r r p r r r

電話がかかってきた

ディスプレイを見ると

『馬鹿親父』

と書いてあった

「何だよクソ野郎イキナリかけてきやがって
今はそれどころじゃねえんだよ」

俺はイキナリ文句を言った

『おう、馬鹿息子

言うようになったじゃねえか』

この馬鹿親父こと今井 宗一郎は今井コーポレーションの現社長だ
まあ、俺は社長の息子としてかなり裕福な暮らしをさせて貰っている

『それどころじゃねえってのはどうせ家がねえとかだろ?』

俺は思考が数秒止まった

「何で親父がその事を知ってんだよ!!」

『そりゃ家を解体させたのが俺だからに決まってるだろ』

またこいつは何をやっているんだ
頭に虫が湧いたか??

「んで、何でそんな事をしたんだ」

俺は聞いてみた

『お前最近ダラけてるらしいじゃないか

それで俺がチョット喝をいれてやろうと思ってな』

あー、成る程な
って!!

「全然チョットじゃネエーよ!!」

『そうか??

まあ、壊しちゃったもんは仕方ねえだろ
大丈夫だ、最低限の装備品は用意したからよ
RPGという馬車とか宿屋になるものをよ』

親父そう言うのと物陰から黒服が数人やって来た

「啓介様、お父様からのプレゼントです」

後ろから出て来たのは

リアカー&ダンボールの山

「俺!!ホームレス決定かよ!!」

電話がきれていたので、かけなおした

「頼む、出てくれよ」

『この電話は現在使われてはおりません』

で……

「電話の契約切りやがったーーーーー!!」

こんな馬鹿なやり取りのおかげで啓介君のホームレス生活は始まった

……

時間は元に戻る

クソッあの馬鹿親父め

リアカー引いて天下の国道の脇道を走る事になるなんて、夢にも思
ってなかったぞ

「今日の夕飯どうしようかな……」

俺の財布には樋口一葉さんが一人に、世にも珍しい2000円札が
一枚だ

いつまでこの生活が続くか分からない今ではそんなに大金をイキナ
リ使うのは不味い

これは……もっと真剣に勉強とかしてりゃ良かったなあ

はあ、二ヶ月前の自分を恨むぜ

先ずはコンビニに俺は入った

「いらっしゃいませ」

俺は安い食べ物が無いか探した
そして弁当売り場で異変を感じた

シャケ弁

そう、コンビニの代表的な弁当に店員が近づいて行く
そして、手に持つ『半額』のシールを貼り付けようとする

その様子を見ていると後ろから殺気を感じた

俺の後ろには何人か人が居た

おそらく俺と同じホームレスか金の無い学生だろう

そして店員の持っていたシールがシャケ弁に貼られた瞬間

試合開始のゴングが鳴った

……

「はあ、結局五つあったシャケ弁の一つも取れなかった」

俺は公園のベンチに座って
うなだれていた

「きみ、ホームレスかい??」

後ろから声をかけられた

「えっと、はいそうなりますね」

俺の後ろにいたのは少しボロっちな服を着た青年だった

「成る程な、君が新入りか……
神様の予言が当たったようだ」

神様??

「君もホームレスなら
神様に挨拶に行かなきゃね」

神様に挨拶??

「おい、神様って誰だよ??」

俺がそう聞くと、青年は笑ってこう答えた

「僕たち、ホームレスの神様さ」

今井 啓介

年齢 16歳

職業 学生? ホームレス

装備品

武器 無し

防具 高校のジャージ(上) .. E

高校のジャージ（下） .. E

その他 人力！！ マッハ・リアカー号

1／1 半額弁当の売り場はホームレスや貧乏学生にとっては戦場である（後妻

感想ヨロシクお願いします

1／1 缶コーヒーを買う時はなるべくホットにしよう暖をとれたりいろいろと

こんにちは、 k u r oです

二日連続更新です

いつまで連続更新が続くのか自分でも分かりません

どうしよう月末にテストあんのに

1／1 缶コーヒを買う時はなるべくホットにしよう暖をとれたりいろいろと

「ここだよ」

俺が連れてこられたのは橋の下だった

そこには5、6個のテント（ブルーシートを使った簡易的な物）があった

その中の一つに俺らは入って行った

「おお、よお来たのお」

中には、お爺さんが居た

なんて言うか、『お』が一つの台詞に多いんだけど

「ここはお、ホームレスの溜まり場じゃ

ワシも昔は会社の社長をやったかなりの金を稼いでたんじゃがお
ホームレスにコロコロ、転がり落ちちまったわい」

「ふーん、爺さんの昔話はどうでもいい

俺は何でここに連れてこられたんだ？？」

俺は連れてこられた理由が全く分からないので聞いてみた

「そりゃのお、実はワシ

ホームレスの神様をやめようとしとるんじや

そしてこの辺りのホームレスを全て集めて『次のホームレスの神様
決定戦』を行う

因みに出場を断る事は出来んぞ」

なんつー無理やりなジジイなんだ

「はぁ、でも俺は何もやんねえぞ
それでも良いのか?？」

俺はやる気のなさそうな声と態度で尋ねた

「いや、別に何もやんなくていいんじゃないよ
ただ、明日一日のホームレスとしての根性を見してもらおう
そして、最もホームレスらしい根性の持ち主を次のホームレスの神
様とする」

「そうか、なんもやんなくて良いんだな
なら俺は自由に行動させて貰うよ」

そう言って俺はテントから出て行った

……

さ、寒いです
はい、とても

「さ、寒い日にはホットのコーヒーに限りますよの」

俺はそう言って小銭を自販機に入れてホットコーヒーを買った
さっき弁当を買った時に5000円札を崩して手に入れた小銭だ
……もちろん買えたのは半額弁当じゃねえよ

「か、缶が温かい」

ホームレスになつての教訓

飲み物はホットを買おう

手で持っていれば暖をとれるし

その後飲めるので、一石二鳥だ！！

……

「今日はどこで寝ようかな」

俺の装備品では寢床を作る事はおそらく出来ない

「漫画喫茶とかに入りたいのは山々だが、お金はあんまし使いたく無いんだよな」

仕方ない、公園で寝るか」

……

少尉「公園に到着しました大佐

大佐「了解した、支給寢床を確保しろ

少尉「ラジャー」

なんて馬鹿な事はやめて
本気でどこで寝るかだな

A・ベンチを下位にダンボール上位に

B・夜にトイレなんかにないだろ洋式便座で座って就寝

よし、Bだ

Bにしよう

俺は迷わず選択肢Bを選択した

……

ガチャ

少尉Iトイレ、無人です

大佐Iよし今日はそこを寢床にしろ

少尉Iラジャー

俺はここで寝る事にした

「じゃっ、お疲れ」

お休みなさい」

テレテレテッテッテ

なんて数秒で夜が明けるわけは無い

……

コンコンコン

やっべえ!!

誰か来た!!

「す、すぐ出ます」

俺はそう言ってすぐに出た

そこには、黒いドレスを着た金髪の少女がいた

「質問がある」

イキナリこう言ってきた

「そのナリで貴様は女なのか?」

ここは女性用のトイレのはずなんだが」

は……

よし、一旦整理しよう

場所 トイレ（おそらく女子トイレなのだろう）

周囲の様子 前門の美少女、後門の女子トイレ

オイオイオイオイオイ

何だよ何だよ何なんですか

これってハンザイじゃない??

俺はそう思った瞬間

その少女の口を塞いで

そとに走って連れ出した

今井 啓介

年齢 16歳

職業 ホームレス

装備品

武器 無し

防具 高校のジャージ(上) .. E

高校のジャージ(下) .. E

仲間 黒いドレスの金髪なロリ美少女

その他 人力!! マッハ・リアカー号

1／1 缶コーヒーを買う時はなるべくホットにしよう暖をとれたりいろいろと

感想お待ちしております

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4351ba/>

home=レス??

2012年1月12日19時57分発行